

宇都宮市立田原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意であると肯定的に回答した生徒が、42.1ポイントおり、県の平均を3.1ポイント上回っている。自分の考えや意見を発表する授業を積極的に取り入れていく。また、発表を苦手とする生徒に対して、発表原稿を作成させたり、少人数グループで発表をさせたりして、発表の機会を多くし、発表への抵抗感をなくしていく。

○本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ていると回答した生徒が、58.9ポイントおり、県の平均を3.8ポイント上回っている。情報センターとしての図書室やコンピュータ室を活用した授業を今後も積極的に取り入れていく。また、本校ホームページの内容を充実させ、生徒の活用を支援していく。

○毎日、朝食を食べている生徒の割合が90.7%と昨年度より4.8ポイント高くなった。今後とも食育だより等で継続的に呼びかけ、家庭にも食の大切さを呼びかける必要がある。また、好き嫌いをなく食べるように栄養にも目を向けさせるようにしていきたい。

●勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがあると肯定的に回答した生徒が、64.5ポイントおり、県の平均を10.7ポイント下回っている。生徒の興味を引きつける授業を展開するとともに、基礎基本の定着の徹底を図り、生徒一人一人が学習に対して前向きに取り組めるようにしていく。

●2年生に対して、家庭学習の時間は平日2時間(15分×8学年)と指導している。しかしながら、平日の家庭学習時間が、1時間以内という生徒が37.3ポイントおり、家庭学習時間の不足している生徒が多くいる。

●家で授業の予習をしていると肯定的に回答した生徒が、29.9ポイントおり、県の平均を13.6ポイント下回っている。また、家で授業の復習をしていると肯定的に回答した生徒が、55.1ポイントおり、県の平均を13.4ポイント下回っている。家庭学習の時間が少ないため、授業の予習や復習が十分でない状況である。家庭学習ノートを活用して家庭学習時間を確保するよう指導していく。

●家で勉強するときには、だいたい同じ時刻に取り組むようにしていると肯定的に回答した生徒が、55.1ポイントおり、県の平均を7.3ポイント下回っている。規則正しい生活の大切さを訴えとともに、月ごとに部活動終了時刻を定め、生徒が規則正しい生活ができるように支援していく。

●早寝早起きを心がけている生徒は58.9%で昨年度より9.8ポイント下がっている。睡眠の大切さやメリットを伝えることだけでなく、忙しい中でも、睡眠時間を確保できるよう指導に努めていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における「本時のねらい」の提示	どの授業も、授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示(板書)して、生徒一人ひとりにその時間に学ぶ(身につける)ことを明らかにした上で授業を進めている。提示の仕方・説明・タイミングは各教科の工夫にゆだねている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は87.9%で、まずまずではあるが県と比較すると5.9ポイント下回っているため、更なる徹底が必要である。
授業における「ふり返り」の充実	どの授業も、授業の最後に「本時のねらい」に関する「ふり返り」を必ず行い、その授業で学んだ(身につけた)ことを確認させる時間を取っている。ふり返りの仕方(板書・ワークシート等)は各教科の工夫にゆだねている。	「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は57.0%ではあるが、昨年度の2年生と比較すると1.4ポイント増加している。
「学び合いグループ活動」の積極的導入	グループ活動を通して言語活動をより充実させるようにしている。生徒が目的意識を持って主体的に活動するような協働的な授業を目指して、各教科で様々な形態のグループ活動を研究している。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は76.4%で、更に昨年度の2年生と比較してみても1.7ポイント増加している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答割合は6割近く、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は4割そこそこしかない。「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」を県と比較すると14.7ポイントも下回っている。	言語活動をさらに充実させて、生徒一人ひとりの学習リテラシーを高める。	様々な言語活動の中から「書く」「話す」「発表する」の3観点に絞って研究を進めることにより、本校の生徒の傾向である受動的な姿勢を改善し、不足している主体性を育てていきたい。この3観点を自主研修課題とした「公開授業週間」を持ち、その成果と課題から教師全員が「学力向上改善プラン(授業改善の具体策)」を作成し、途中修正を加えながら今年度それぞれの授業に反映させていく予定である。